

## 海外出張報告書

2013年6月11日提出

氏名	丸山 隼輝
所属	人獣共通感染症リサーチセンター国際疫学部門
学年	博士課程2年
出張先	フィリピン・カラバオセンター
出張期間	2013年6月2日～10日 フィリピン滞在は6月3日～9日（6月3日はマニラ泊）
目的	フィリピンの豚におけるエボラウイルスの流行調査

エボラウイルスはヒトおよび霊長動物に対して致死的な出血熱を引き起こす人獣共通感染症病原体である。エボラ出血熱の発生はサハラ砂漠周辺のアフリカ諸国でのものが主だが、フィリピンではレストンエボラウイルスがサルおよびブタから検出されている。レストンエボラウイルスはサルにおいて病原性を発揮するが、ヒトにおける発症例は報告されていない。また近年、中国においてブタからレストンエボラウイルスの検出があったことからレストンエボラウイルスの宿主としてのブタの重要性に注目が集まっている。そこで、今回フィリピンの豚におけるレストンエボラウイルスの流行状況を調べるため、Dr. Gundran の協力で採集された血清サンプルを用いた抗体保有状況の調査、さらにスワブサンプルからのウイルス遺伝子の検出を試みるためのRNA抽出を行った。さらに新規に見つかったフィロウイルスである Lloviu virus に対する抗体保有状況についても調査した。実験は、去年の6月と同様にフィリピン・カラバオセンター（PCC）に滞在し、Animal Health Laboratory の Dr. Mingala の協力の元で行った。

またフィリピン滞在初日には WHO 西太平洋地域のマニラオフィスに出向している北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター危機分析・対応室の磯田准教授を国際疫学部門の鈴木教授、高田教授と共に訪問し、WHO におけるインターンシップ制度についての情報やフィリピンや周辺諸国で発生している感染症の現状についての話を伺った。



図 1. フィリピンのマニラオフィスにて

さらに PCC において Dr. Mingala の要請により PCC の教職員および学生を対象に自分の大学院における研究成果を “Characterization of Lloviu virus, a novel discovery” と題して発表させてもらう事ができた。英語での発表であったが本学 Leading Program でのカリキュラムが役に立ち無事に終わることが出来た。また質疑応答でもいくつか質問や意見を頂き、さらに公演後に研究内容について学生が質問に来てくれるなど一定の興味を得てもらうことが出来、非常に貴重な経験となった。さらに北海道大学獣医学部の博士課程進学に興味を持っている学生と話すことが出来、本学の魅力やカリキュラムについての情報を提供した。



**図 2. 公演後に感謝状を Dr. Mingala から授与される**

今回のフィリピン滞在は良好な実験データを得られただけでなく、発表の機会や WHO および現地の人々との交流を通じて、感染症に対する認識の違いを感じ、人獣共通感染症リサーチセンターが果たすべき役割を再確認するいい機会となった。最後に、今回の滞在に際し、助力を頂いた Dr. Mingala および学生の方々に感謝申し上げたい。